

# 防潮堤高3パターン示す

内湾  
まち協  
検討状況を住民に報告 気仙沼

気仙沼市の内湾地区復興まちづくり協議会(菅原昭彦会長)が28日、9カ月ぶりの全体会を気仙沼中学校で開き、防潮堤や土地区画整理の検討状況を報告した。災害危険区域内での住宅再建に対する支援が課題として挙げられたほか、堤防高などの方向性を11月下旬に予定している全体会で確認する方針が示された。

しかし、市は独自支援の拡充に対しては、他地区にも影響することから「非常に難しい」と説明。地盤のかさ上げ高についても「魚町は岸壁への出入

りにも影響するため、わずかな調整にとどめることが適切と考えている」と消極的だった。

この日は、協議会と市がそれぞれまとめた土地利用計画案が示された。エースポートや市営駐車場などの公共施設は南町3区での再建を想定しているほ

か、各地区で共同ビルの整備も検討されている。

全体会には約120人が参加。菅原会長は「いよいよ防潮堤を含めて前に進まなければならぬ。これからは論点を絞り、次の全体会まで方向性を見だし、皆さんと確認したい」と話した。

海抜5・2メートルの高さで計画されていた防潮堤は、湾口に防波堤を設置することで3・8メートルまで引き下げられる。

災害危険区域内では住宅の建設が制限され、市の独自支援も受けられないため、市に支援対象の拡充を要望していく考え。また、地盤のかさ上げを高くすることで、災害危険区域から外れるエリアを増やすとともに、陸側から見た堤防高を抑えていくことも検討する。



内湾地区まちづくり協議会の全体会